

- 1 日時 令和8年2月13日(金) 午前10時から正午まで
- 2 場所 浜松みをつくし特別支援学校 会議室
- 3 参加者 学校運営協議会評議員 7人(6人出席、1人欠席)
  - ・A委員(大学教授)…欠席
  - ・B委員(元小学校校長)
  - ・C委員(自治会長)
  - ・D委員(幼稚園園長)
  - ・E委員(商工会 副会長)
  - ・F委員(鉄道株式会社 常務取締役)
  - ・G委員(PTA 会長)学校関係者 9人
  - ・校長 ・副校長 ・教頭 ・事務長
  - ・小学部主事 ・中学部副主事 ・高等部主事 ・地域連携課長 ・教務課長

#### 4 次第

##### (1) 校長あいさつ

- ・少し前からインフルエンザ、コロナの感染症が本校でも流行っている。
- ・委員の皆様には本校の教育活動や子どもたちを御覧いただくことは、私たちにとって大変貴重な御意見や気付きを得る機会となる。率直にたくさん御意見いただきたい。

##### (2) 議事

###### ア 令和7年度の高等部卒業生について

- ・進路決定にいたるまで、高等部3年間の間に5回の職場実習を行っている。
- ・生徒36人中、5人が一般企業へ就労し、31人が福祉サービスを利用する予定。
- ・進路指導の事例2件を紹介した。
  - 事例1：生徒A(市内中学校出身)、進路先…就労継続支援A型事業所
  - 事例2：生徒B(本校中学部出身)、進路先…生活介護事業所

###### <委員より>

- ・特別支援学校の進路指導について理解することができた。
- ・通学や学習する姿など普段の様子を知ることができたが、就職はどうしているのだろうと思っていた。本人がいいなと思った実習先でもう一回実習できるところがとても良いと思った。
- ・一人一人違うが、本人や保護者と一緒に考え、生徒が自己決定していくことが素晴らしいと思った。また、自分で決めるけれど、もしだめだったら違う方にいけばいい、ということを経験することも生きていく上で大事なことだと思った。
- ・障害福祉サービスの体系を初めて知った。そもそもどういう人ならば、どういう事業所にいけるのかなど、早めに情報提供できるとよいと思った。
- ・障害者の方が就労する難しさについて。会社は利益を追求するため、雇用のハードルが高い。事業者側の理解を増やし、そういう社会になるよう広げていけるといいと思った。
- ・高等部3年間の中で、子どもの特性に応じて、きめ細やかな実習が行われていると感じた。
- ・子どもの気持ちを大切に、学校が丁寧に取り組んでいることが、今回の説明でよく分かった。

## イ コミュニティスクールプロジェクトの中間報告

2/20にある県研究指定校発表会の内容を実際に伝えた。

<委員より>

- ・成果の一つに職員の仕事の軽減を挙げていたが、立ち上げ当初の苦労があって現在の状況になった経過があると思うので、そのあたりの話があってもよい。

## ウ 学校自己評価と次年度の基本方針

～今年度の学校評価について～

教職員と保護者からのアンケート結果を示し、写真や参考資料を提示しながら今年度の成果と課題について説明を行った。自己評価は、全ての項目でAとした。学校関係者評価について、委員からの意見や質問をいただきながら協議した。 →学校関係者評価：A

<委員より> ⇒学校関係者からの回答

- ・小中高の12年間を見通して、計画的に実践されているところがよかった。
- ・防災学習について。特性をもつ子にとって、いつもと違うことは苦手なので避難所生活等への不安がある。様々な訓練の機会を設けているようだが、実際にどのようにやっているのか。計画に沿った訓練ではなく、職員が状況を判断して対応できるかということも大事。例えば事前連絡なしの訓練はあるか。

⇒今年度1回、予告なしで訓練を行ったが、比較的落ち着いて避難できていた。ヘルメットや防災頭巾をかぶる、頭を守るなど、繰り返し体験的に行っていきたい。

- ・昔に比べてICTが普及し、子どもたちにとっても身近なものである。効果的に使用できるだけの台数はそろえているのか。

⇒小中学部はGIGAスクール構想により、一人一台端末が支給されている。高等部はBYOD（私物の端末を学校に持ち込んで授業や学習活動に活用すること）がなかなか進んでいない現状、生徒が自分で管理できるようにするための支援や工夫が必要である。

- ・保護者から高い評価を得ている。保護者や職員からの評価がまず大切。ただ、卒業生のデータについても把握するとよいのではないか。卒業後のデータをとって、教育活動にフィードバックしてみてもどうか。学校の役割として、自分たちが目指している自立と社会参加ができていくのかというデータを把握する視点が大事。
- ・AよりBが多いところ、差があるところを細かくみていくといいと思う。
- ・評価をつける際の基準があるとよい。

～次年度に向けて～

校長より、令和8年度の学校経営計画案について説明した。

- ・今年度継続したことを基本とし、長期計画でより質を高めていく。
- ・部分休業制度を利用する教員も増えており、業務量の削減や見直しも進めながら、自らの働き方のスキルアップできるよう、「働きがい」と「働きやすさ」が両立された職場づくりをさらに進めていく。

### (3) 閉会あいさつ

## 5 諸連絡

- ・卒業式の来賓として依頼文をお渡しした。
- ・一年間ありがとうございました。